

## 梅窓院通信

お盆号

No. 107

2020/06/01

青山



協力：永楽堂

住職挨拶

梅窓院第二十五世 中島 真成



新型コロナウイルスの猛威が世界を襲っています。皆様が万全の対策をされ、こうした中でもお変わりなくお元気でいられることを心より祈念申し上げます。

この感染症、社会のあらゆるところに影響を与えています。同時

に私たちの社会がどれだけ色々なところと繋がっているかということに改めて気づかされたように思います。そうした中、私たち浄土宗でもこの感染防止のためのマニュアルが出されています。ご先祖あつての私たち、そのご先祖への供養となる法事の時に気を付けなくてはいけないこと。ご葬儀で心することなど細かい事まで記された書類が全国の浄土宗七千力寺に届けられました。

特に不幸にも感染されてお亡くなりになった方のご葬儀をする時は気を遣います。ご家族にとってもご遺体に最後の別れを告げたい思いをどうするかは難しい問題です。いろいろなケースがあるので一概には言えませんが、惜別の念と感染とのほざまでご家族も僧侶も関係者全員が揺り動かされざるを得ません。世界を激震させているこの感染症もいつかは終息する日がきますが、その日をどう迎え、その後をどうしていくのか。考えるべきことは山積みです。

梅窓院では六月以降の行事については、残念ながら中止せざるを得ない局面を迎えました。開山忌、盂蘭盆会などそれぞれ大切な行事ですが、檀信徒の皆様の感染リスクを考慮の末、法要への参列をご遠慮願うことになりました。皆様の健康維持のため、ご理解を頂きたくお願い申し上げます。

## オリンピック延期に伴う法事受け付けのお知らせ

※七月二十二日(水)～九月六日(日)をオリンピック・パラリンピック期間として法事をお受けできない旨の案内を前号で致しましたが、オリンピック・パラリンピック延期により法事を受け付けることとなりました。

# 法話 仙教歳時風物詩(50)

## 盆施餓鬼のゆかしさ

新宿区 香蓮寺住職

## 勝崎裕彦

**地** 球温暖化などによる気候変動の影響で、七月盆にしても八月盆にしても、お盆時分の時節時候の

風気もいささか変化している近年である。しかしそうした中で、日本文化の大いなる伝統の一つであるお盆行事のありようは決して変わるものではないであろう。

お盆のころとは、いのちを尊くありがたく思うこと、そしてふるさとをなつかしくゆかしく思うことではなからうか。そうした心根、心差しは日本列島に暮らすだれひとりとして変わらないものではなからうか。世上世相が急激に変化しつつある二十一世紀の現代日本の精神文化や生活文化の中にあつて、お盆ごころの伝承・継承はかならずやしつかりと確かに受けとめられ、受け継がれて行くものと信じている。

そこでお盆時分の風趣を思いめぐらせながら、私たちのお盆の心具合、心模様を考えあわせながら、お盆の頃のゆかしさを辿つてみたい。とくに盆施餓鬼あるいは施餓鬼盆という言葉い方があるように、施餓鬼行事と重ねて営まれてきた、かつての時代の習俗、徳風をなつかしみながら、仙教俳句のいくつかを味わつてみたい。

走り出て幼なもかがむ門火かな

(暁水)

子らの真顔のこし苧殻の燃え残る

(彩雨)

まずは迎火の句である。職人境涯俳句で知られた森川暁水は、小さな子が小さくかがんで見つめる姿を写したが、「走り出て」の初五には子供らしいはやる思いがよく伝わってくる。その苧殻火の消え行く明かりを受けている素直な幼な子の顔をやさしく見つめたのが、酒井彩雨の一句である。

盆暑しかててくはへて大日覆(万太郎)  
夕暮の人しづまりぬ霊まつり(素丸)

そしてお盆の一日。久保田万太郎は日盛りに身を置き、江戸中期の俳人大江素丸の句には夕景の盆祭りのおだやかな静かさと旧暦時代の初秋の幾分の涼しさが込められている。

棚経やあいさつもななく戻らるる(宗居)  
盆の僧提げ来し籠に木魚かな(俊三)

宗居は伊勢の人で三浦樗良門下であるから江戸中期の俳人である。この句は、僧侶としての私もかつて若い頃の修行時代、たくさん檀家回りをお手伝いして、同じように振る舞っていたことである。そして今村俊三の句は、「提げ来し籠」に暑さの中の涼味を見

つめているのである。

送り火やともぬかづくかかりうづど

(暁水)

燃え尽きし送り火にまだ踏み居り

(あや)

送り火に深く礼拝する暁水の句、その明かりの尽きたあともじつと腰を曲げてかがんでいる姿を見つめる菖蒲あやの句、いずれもある程度の年かさを経た年配の人が感取される。

ところで施餓鬼会にかかわる句は、川施餓鬼・海施餓鬼・施餓鬼舟を季語とするものが多い。ここでは詩人北原白秋のよく知られた一句と西山謙三という人の句を、いずれも山を見つめたという視点で掲げておく。

蛸や山の施餓鬼の日盛に(白秋)  
鐘ついで施餓鬼はじまる山の寺(謙三)

こうした例句はいわば思い出の中のお盆のころを伝えるものである。昔ながらのゆかしいお盆の心根、心差しをしつかりと受け継いで、正しく守り続けて行きたい。そして、日本人の仏心、ほとけごころの伝統をはるかに育み託したい。

(大正大学名誉教授)

はなまつり  
4月4日(土)~8日(水)



花まつりで飾られた花御堂と誕生仏



尼僧によるペット慰霊法要



春彼岸法要の様子

令和二年  
春彼岸法要  
3月20日(金・祝)

三月・四月の  
行事報告

# お盆 七月十三日(月)

## 盂蘭盆会法要

盂蘭盆会法要は、新型コロナウイルスの感染拡大を懸念し、皆様の健康と安全を確保するため、梅窓院僧侶のみで厳修致します。檀信徒の皆様のご参列はご遠慮下さい。

お塔婆につきましては、法要後に僧侶にて建てさせて頂きます。なお、法要の様子は梅窓院ホームページにてライブ中継予定です。詳しくはホームページをご覧ください。

## おたなぎょう 御棚経

七月十三日～十五日

### お盆とは

「お休みは盆と正月だけ」と言うようにお盆は1年の中でも特別な時期で、ご先祖様を供養、この世にお招きします。行事や風習は地域で異なるものの国内一斉に盆休みを迎え、ご先祖を含め家や家族を意識できる大切な時間です。ゆっくり時間を過ごせる時に「家」や「自分」を見直す機会、日本人の知恵とも言えるでしょう。

棚経については同封の別紙「お盆について」をご覧ください。また、不明な点がありましたら梅窓院法務部へお問い合わせ下さい。

### 盂蘭盆会 塔婆・回向のお申込み方法とお知らせ

#### ◆盂蘭盆会 塔婆・回向お申込み方法

塔婆回向 1 本 ..... 10,000円

御回向料 1 霊 ..... 5,000円

#### お申込み方法

同封はがきにご記入の上、7月1日(水)必着でお申込下さい。

はがきの書き方は同封の「書き方例」をご参照下さい。

#### お支払方法

同封の振込用紙で郵便局にてお支払い頂くか、当院受付までお持ち下さい。銀行・コンビニでのお支払いはできません。

ご不明な点は梅窓院受付までお問い合わせ下さい。

新型コロナウイルスの流行が続いており、皆様はいかがお過ごしでしょうか。

外出自粛が長期化するなかで、当たり前前にできたことができないストレスにお悩みの方も多いかと存じます。しかし、視点を変えてみれば、〇〇ができないという事は代わりに〇〇ができるということでもありません。ウィンドウショッピングができない代わりに、読まずに積んである本が読めるということでもあります。

まさに、思い通りにいかない人生をどう生きるのか、というのは仏教の根幹の教えなのです。お釈迦様は何事もこだわり過ぎず、ほどほどに(これを中道ちゅうどうといいます)と説かれました。こだわり過ぎないとは、柔軟に考えるということでもあります。外出できなくとも、想像力を働かせれば、本や映像の世界へ旅できます。

また、慌ただしい日常から少し離れて、お浄土へ立った人を想う時を過ごすのもいいかもしれません。普段なかなか時間を取りづらいいと思います。喧嘩を離れ、先立った人と思いを共に、お念仏をお称えしてみてはいかがでしょうか。法然上人はお念仏によって病気が治るとも、妄念が消えるとも仰せになります。ですが、自然と阿弥陀様を信じる気持ちが生じると仰せています。

どうぞ今はなお一層ご自愛のうえ、この事態が収束の後、また皆様と共にお念仏をお称えしたいと願っております。

合掌

(法務部／中島真紹)

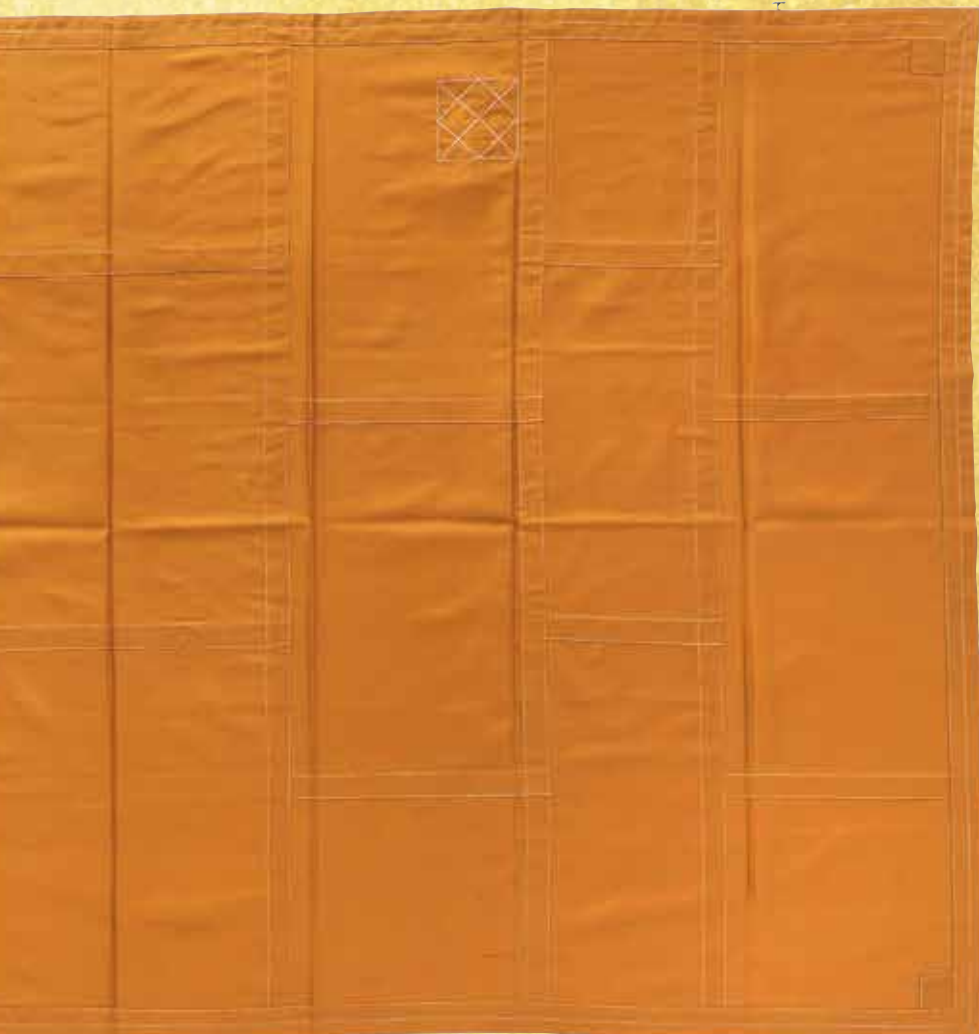
お盆に寄せて

# 浄土宗の仏具と衣

第4回  
袈裟  
その③

袈裟シリーズの最終回をお届けします。

2回にわたり、主に法要で身につける袈裟を紹介しましたが、今回は僧侶が修行の時や普段身につける袈裟を紹介します。



如法衣。横が七条に、縦が異なる長さの三条に区切られています。茶色が一番多い色となります。(写真提供:島津法衣店)

もともと糞掃衣、福田衣と呼ばれていた袈裟は仏教が生まれたインドで僧侶が身につけていたものです。作り方は、使い道のなくなつた色々な布を縫い合わせ、それを泥水につけて染めたり、草木で染めて色をつけて作りました。

チベットやタイなど、仏教国のお坊さんが主に茶色系の袈裟を身にまとつた姿を見たことがあるかもしれません。あれが袈裟の原型です。今回紹介する如法衣は最もこの袈裟の原型に近いもので、写真(上)のように長方形で結ぶための紐がついています。よく見るとわかりますが、幅は異なり横は七つに、縦は三つに区切られています。これはあえて一枚の大きな布でなく、小さな布を縫い合わせて作るという袈裟の原点を表しています。

着方は右肩を出すように身体に巻きつけます(写真左上)。

色は茶色系かネズミ三色系が多いようです。前回までに紹介した、儀式や法要で身につける色とりどりの模様のある袈裟と違い、主に修行する時に身につけます。袈裟なのに如法衣と書くのは、もともとは直接身につけるからです。

小五条(壊色)



小五条(顕色)





如法衣は右肩を出して、左前に合わせの部分がくるように身に巻き付けます。



次に小五条袈裟と輪袈裟を紹介します。これはどちらもお坊さんの本来の普段着である改良服という衣に着ける袈裟で、如法衣のような色のない壊色(茶色、ネズミ色など)と色のある顕色(金色、銀色など)があります。なお、写真(右頁下)の小五条の顕色は金色ですが模様や柄がない落ち着いた顕色です。また、輪袈裟(下)は僧侶以外の職員も着けますが、こちらは緑色に梅窓院の寺紋が入った、金欄ながら落ち着いた色柄です。



輪袈裟(金欄)

こうした袈裟は既製品の他に色や柄、形を選んで法衣店などに注文することもあります。梅窓院では、以前本誌の「囲む人々」で紹介した島津法衣店にお願いしています。

3回にわたる袈裟シリーズの最後に、七条袈裟、五条袈裟、大五条、そして如法衣に共通する身に着け方をお話ししました。

共通するのはいずれも右肩を出して身に着けることです。仏教発祥のインドでは、仏や目上の人への敬意を右肩を出すことであらわします。民族衣装のサリも右肩を出しています。こうしたことから右肩を出しているのです。法要の時にご覧下さい。

## 梅窓院を囲む日々

株式会社 公営社

代表取締役会長

今号は梅窓院でのご葬儀に協力頂いている公営社さんの新宿本社を訪れました。新型コロナウイルスが広がりはじめた頃にお話しを伺いました。

◆感染症が拡大し始め、葬儀屋さんが大変大きな役割を果たすことになる中、貴重なお時間を頂きありがとうございます。

会長(以下 ) いいえ、こちらこそいつもお世話になっています。

◆公営社さんは歴史ある企業と聞いています。そこから伺わせて下さい。

祖父が福島屋という葬儀屋を買入したのが始まりです。

祖父は大正10年に自動車免許を取得していますが、当時としてはとても貴重な資格でした。

◆大正時代ですが、その免許でどんな自動車に乗っていたのでしょうか。想像もつきません。

昭和13年に福島屋を買いましたが、一方霊柩車を保有している葬儀社が数十社と国の命令で統合され、東礼自動車を設立しました。そして昭和22年に葬儀事業にも乗り出したのですが、既存の葬儀社から総スカンを受け一年で手を引きました。この葬儀部門の公営社を一葬儀社とし、昭和23年、吸収合併したのが現在の公営社です。

◆なるほど、いろいろな経緯があるんですね。どんなご祖父様だったのですか。ご記憶はありますか。

富山の出身で、今の大井競馬場あたりにあった牧場で丁稚をしていました。

◆大井競馬場は大森の近くかと思いますが、牧場があったのですか。

そうです。車社会の前は馬、馬車の時代です。車にガソリンが必要なように、馬には飼葉が必要です。つまり牧場は必須で、祖父がいた牧場は陸軍に牧草を納入していたと聞いています。

ご子息に社長の席を譲られた  
会長が、まだまだ一線での  
仕事をされている。



新宿本社の奥にある式場で中島住職と並ぶ  
中央奥のお地藏さんのモデルは中島住職と  
か。 会長。

◆言われれば馬の餌は大切ですね。

祖父は実直な働き者で、それを認められ、その長女(祖母)と結婚しました。

◆それで免許も取ることができた。

そうですね、牧場主はやがて来る車社会を予測し、娘婿に準備をさせたということでしょう。

◆そうすると、牧場主の娘さんが 会長のご祖母様ですね。

はい、祖母はそれこそチャキチャキの江戸っ子でした。羽振りもよくて子供の頃、色々な物を買ってもらいました。楽しかったですよ。

◆なにか目に浮かぶようです(笑)。

田舎から出てきた真面目一筋の祖父と牧場主のお嬢様である祖母。二人を主人公にして今でもドラマになりそうですね。

◆はい、確かに(笑)。さて、“今”の話を伺いますが、葬儀の形態は変わってきていますか。

10年ぐらい前からでしょうか、景気の影響、生活環境や様式、地域とのつながりの変化で大きく変わってきています。具体的に言うと、葬儀の小型化、家族葬、一日葬、窯前葬、直葬などです。

◆確かに大きな変化が起きていることはお寺も実感しています。

そうした中、公営社さんの特徴を教えてください。

はい、当社自慢は葬祭ディレクターが20名いますが、その全てが1級の資格を持っています。

◆すごいですね。

経験値は間違いなく高いです。

◆いくつもの式場やお寺とのお付き合いがありますが、梅窓院の魅力を教えてください。

立地の良さ、大小の式場、ご遺体安置ができること、この3つが特徴ですね。梅窓院は設備が整っていて使いやすさはとてもいいです。

◆ありがとうございます。これからもよろしく願い致します。

いえいえ、こちらこそ引き続きよろしく願い致します。



梅の花

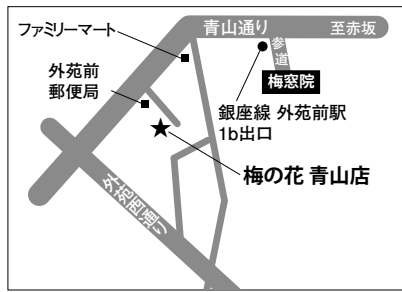
梅窓院のお檀家さまに好評の「梅の花」、8年ぶり二度目の紹介です。

「梅の花」は青山散歩道の中で一番人気の店。その理由は料理・客席（個室）、そしてコストパフォーマンスです。

お料理は体に優しい看板料理の湯豆腐で、美肌効果の高い鹿児島県垂水市の寿鶴温泉水を使用し、温まると透き通って



食事を楽しみながら心まで癒される雲母気のある個室。



営業時間／  
ランチ11:00～16:00(L.O.15:00)  
ディナー17:00～22:00(L.O.21:00)  
定休日／なし  
席数／80席  
※個室は、平日3,300円コース、土日祝日4,800円コースを注文された方のみ、2名～10名までご予約が出来ます。  
住所／東京都港区南青山2-27-18  
AOYAMA M'S TOWER 2F  
TEL／03-5412-0855



春美人3,300円  
美白効果もある豆腐のメニューが豊富で女性に人気。



彩ランチ2,800円  
名物料理湯葉揚げ他12品の料理が楽しめるコース。

いた温泉水が真っ白に変わります。それが出来上がるの合図。熱い湯豆腐が口の中で広がり、身体のコまで温めてくれます。

また、和食だけでなく季節に合わせて一品料理も目移りする品数です。嬉しいのが、人数に合わせて個室を用意してくれること。基本コースは看板料理の湯豆腐が入っているながらも、お財布に優しい値段です。梅窓院から徒歩5分程度の場所にあり、まだ訪れていない方は是非、法要後やお参りの際に足を運んでみて下さい。

青山俳壇

選者「ウエップ俳句通信」編集長

大崎紀夫

◎特選

○ 轉を聴く分校の十の耳

◎入選

- 食卓のアスバラガスの食感よ
- 街灯を近くにしたら桜かな
- コロナ禍を早く消し去れ春の雪
- 桜餅喉に詰まらせたことも
- 桜散る静かに動くパトカーに
- 水温む釣り人糸を垂れしまま
- 角砂糖をミルクにひとつ春惜しむ
- うかうかと傘寿を迎へ桜咲く
- 所在なく茶を立ててをり暮の春
- 春の雨花壇の白き砂濡らし
- 用水の橋のたもとに辛夷かな

◎選者詠

○ 沼尻に鮒はねる音山ざくら

大崎 紀夫

（ワンポイントアドバイス）

一句を作るとき、言葉をも舌頭で千転させよ、といったのは芭蕉です。言葉をあれこれ声に出して、調べを整えよ、ということ。俳句は、ただ五七五であるばかりではダメで、調べがよくなければならぬ、ということ。千転は、ま、無理ですが、五、六転くらいは必要かもしれません。

投句募集

今回は「夏の季語」でご自由にお詠み下さい。7月1日を締切り、9月発送の『秋彼岸号』にて発表致します。  
住所、氏名をお書き添えの上、ご応募下さい。尚、選者が添削し掲載する場合がございますのでご了承下さいませ。  
皆さまの投句をお待ちしております。  
〒107-0062 港区南青山2-26-38  
梅窓院「青山俳壇」投句募集係

「やぶれ傘」会員募集

青山俳壇の選者、大崎紀夫先生による俳句の会です。ご興味のある方は、下記の番号までご連絡下さい。  
ウエップ編集室  
電話03-5368-1870

第七十九回

食は命

食養研究家  
武鈴子

「肺」を守る食べ物

新型肺炎コロナウイルスのための「巣ごもり」が続いています。このコロナウイルスは、自覚症状はないのに体内に侵入しているという「見えない敵」、しかも、急激に悪化するというクセモノです。コロナの陽性反応が出た人に、食べ物の味がわからない、匂いがわからないという味覚、嗅覚の異常を訴える人がいますが、中医学の古典『黄帝内経素問』では、「肺は鼻に竅（きょう＝孔）を開く、鼻は肺に属す、肺気は鼻に通じる」と、肺と鼻とは密接な関係にあることを述べています。そして、「肺が平和であれば、鼻はよく臭香を知る」とあり、「肺の潤いが不足すると、鼻孔が潤いを失い、鼻内粘膜が乾燥して、嗅覚が低下する」とも述べています。2000年来の経験医学が的確に教えています。

また、「五行説」によると、「肺」（大腸・鼻・皮膚を統括）を助ける食べ物は「辛味」のものです。ネギ、ショウガ、ニラ、ニンニク、ラッキョウ、タマネギ、ダイコン、シソなどの食べ物。そして辛味は酸味と組み合わせると効果が増すとされています。「酢らっきょう」「ガリ（しょうが＋甘酢）」「酢たまねぎ」など、和食で食べ親しんできたものは、肺や鼻、大腸の薬味なのですね。

免疫力を高めるには腸内環境を調えることが大事といわれています。和食の薬味、洋食のスパイスは脇役的存在ですが、ウイルス予防の強力な味方なのです。

## お知らせ

### 【行事中止について】

新型コロナウイルスの感染拡大を懸念し、下記の開催を中止する判断に至りました。

- ◎令和2年度 仏教講座（4月～翌年3月までの全講座）
- ◎開山忌法要・能楽奉納・写経 6月13日(土)  
※法要の様子を梅窓院ホームページにてライブ中継予定です。  
詳しくはホームページをご覧ください。  
梅窓院ホームページ <https://www.baisouin.or.jp/>
- ◎念仏と法話の会 6月16日(火)

何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

### 【法事について】

オリンピック・パラリンピックが延期になりましたので、7月22日(水)～9月6日(日)法事の受付を再開致します。

### 【御朱印代変更について】

令和2年4月1日から御朱印代を300円から500円に変更致しました。

令和2年春彼岸法要にて

## お檀家さんに伺いました

### 「うらかな春彼岸」

春彼岸には父の供養で訪れました。いつも父と一緒にいる感覚で日常生活を送っているのですが、お彼岸という区切りに気持ちを整理するため、お墓をきれいにしました。

梅窓院に墓地を持つことに決めたのは、泉上人に親切にして頂いたことがきっかけでした。立地も良く、バリアフリー化に力を入れているだけあって安心して歩きやすいのでお参りの際は大変助かっています。ご僧侶や職員がとても親切な梅窓院で、父は安心して眠れていると思います。

### 墓参される皆様へ

梅窓院では、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、安全衛生対策を強化し、各所に除菌水の設置や換気の対応をしております。ご来寺された際、手指消毒にご利用下さい。

また、マスクのご持参・ご着用、咳エチケットなど可能な範囲にてご協力頂きますと幸いです。

体調にご不安のある方はくれぐれもご無理なさらないようお願い致します。

大変恐縮ですが、どうぞご理解とご協力のほど、よろしくようお願い致します。

### 梅窓院のお墓とペット供養の窓口

## ジャパンエキスパートシステム 墓苑事業部からのお知らせ

先日、お檀家様からご連絡を頂き「ご無沙汰ですね。お元気でしたか?」「相変わらずですよ。森さんも元気そうですね。」等々他愛もない会話を続けた後、「ところで今日はどうされました?」「実は父親の具合が悪くなって…。」「えっ?それ先に言ってよ。」散々元気か?などと話したのに。お身内に具合が悪い方が出た場合、墓苑部に連絡ではありませんよ。梅窓院にご一報下さい。

墓苑部はお墓に関係しているところなので、いつも楽しい話ばかりではなくお別れの話もあります。ちょっと前まで楽しい会話をさせて頂いた方のお名前に享年と没年月日が彫刻されているのを見るとじわっときます。

さて、また暑い夏がきます。草むしりなど墓苑代行のご相談が増えて参ります。他にも花粉などが墓石に染み込んでシミになってしまったというご相談が増える時期でもあります。今は薬品を使用して綺麗にすることができます。気になる方は墓苑部にご連絡下さい。

(お盆号が出る頃のコロナが気になっている墓苑部・森より)

発行 梅窓院  
発行日 令和2年6月1日  
発行人 中島 真成  
編集 青山文化村  
住所 〒107-0062  
東京都港区南青山2-26-38  
電話 03-3404-8447  
FAX 03-3404-8107  
ホームページ <https://www.baisouin.or.jp/>  
E-Mail [jodo@baisouin.or.jp](mailto:jodo@baisouin.or.jp)  
題字 中村康隆元浄土門主  
総本山知恩院第八十六世門跡